

市長と語ろう

タウンミーティング

<テーマ>

- (1) 北陸新幹線新駅周辺の整備推進について
- (2) 新市庁舎の建設について
- (3) 子育て・教育環境の充実について
- (4) 消防・防災体制の充実について



【開会のあいさつ】

皆様がたには、仕事を終えられてお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。

そしてまた、今回のタウンミーティングの開催にあたりまして、地区自治振興会、町内会の皆さんには大変お世話をいただきました。心から感謝申し上げたいと思います。

さて、合併して、「新黒部市」がスタートして1年8箇月が経とうとしておりますが、ここまでおおむね順調に推移しているものと考えております。この間、市民サービスの低下を招くことの無いよう努力してきたところであり、今後も、合併のメリットを活かしながら、市政運営に努めてまいりたいと思いますので、一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

総合振興計画策定状況

基本構想 H20～29年度(10年)
(平成19年9月20日議会議決)

前期基本計画
H20～24年度(5年)
(平成19年12月議会報告予定)

後期基本計画
H25～29年度(5年)

【テーマについて提案】

はじめに、総合振興計画の策定状況についてご報告いたします。

総合振興計画は黒部市の最上位計画で、新しいまちづくりの方向を定めるものです。昨年9月以降、市民の皆さんのご意見、審議会での議論を踏まえ、市議会9月定例会において、基本構想の議決をいただきました。市が目指す平成20年度からの10年間のまちづくりの骨格が正式に決定されたわけであります。

現在、この基本構想を受け、各分野で具体的にどのような政策を展開するかを定める前期5年間の基本計画が議論されており、これを取り纏めて、12月市議会に報告する予定にしております。

総合振興計画基本構想

将来像

**「大自然のシンフォニー
文化・交流のまち 黒部」**



基本構想の概要については、黒部市の目指す将来像に「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」を掲げております。

これは、市が将来にわたり発展し続けるためには、豊かな自然環境やふるさとの歴史、生活、文化を大切にするとともに、黒部奥山から平野を舞台にさまざまな交流が活発なまちづくりを推進し、新たな活力と魅力を創造していく市を目指そうとするものであります。

まちづくりの3つの基本目標

自然環境と共生し、流域を育んだ水と緑の文化を創造するまち

共生

多彩な出会いの舞台となる産業・国際観光・交流のまち

活力

人々が互いに支えあい、心豊かに安心して暮らせるまち

安心

また、この基本構想の実現に向け、「自然環境と共生し、流域を育んだ水と緑の文化を創造するまち」、「多彩な出会いの舞台となる産業・国際観光・交流のまち」、「人々が互いに支え合い、心豊かに安心して暮らせるまち」、という3つの基本目標を立て、それぞれ「共生」「活力」「安心」をキーワードに今後のまちづくりを進めていくことにしております。

そして、この3つの基本目標を達成するため、6つのまちづくり方針を定め、さらに、特に重要な事業を重点プロジェクトとして位置づけたところであります。

本日のタウンミーティングのテーマは、この重点プロジェクトに位置付けた中から、市民の関心の高い4テーマについてご提案申し上げたいと思います。

総合振興計画基本構想

基本理念

「市民の参画と協働 によるまちづくり」



また、市民の皆さん一人ひとりがまちづくりの主役となっただけよう、基本理念を「市民の参画と協働によるまちづくり」としております。

これは、市のまちづくりの企画・計画段階から整備、管理・運営にいたる様々な場面で、市民の皆さんと行政とがそれぞれの役割を分担し、それぞれが責任をもって、協力し合っまちづくりを進めていこうということでもあります。

現在、検討中の基本計画においても、それぞれの施策を進めるに当たって、市民の皆さんとの協働体制をお示しして、また、市民、事業者の皆さんの担う役割をメッセージとして表現し、お伝えしたいと考えております。

北陸新幹線新駅周辺の整備推進について

基本コンセプト

来訪者を魅了する
観光と交流の拠点



それでは、4つのテーマについて順番にご提案申し上げます。

まず、1つ目は、「北陸新幹線新駅周辺の整備推進について」です。

現在、北陸新幹線は、7年後の平成26年度末の開業を目指して、長野金沢間で整備が行われており、黒部市内でも工事は順調に進んでおります。

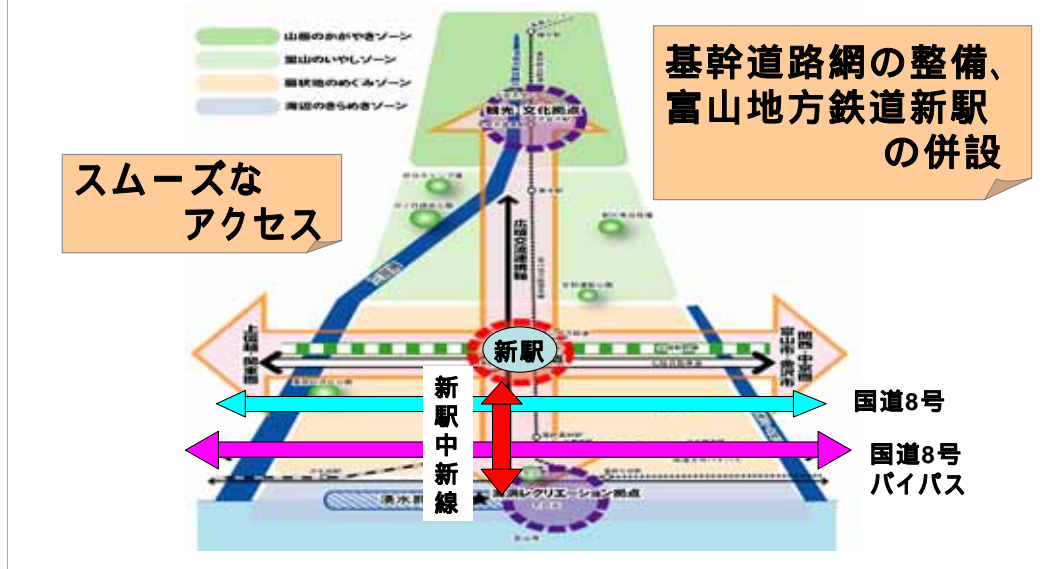
また、(仮称)新黒部駅は県東部の玄関口として位置づけられ、地域経済の活性化の中核を担うことが期待されています。

こうした状況の中、昨年9月に「北陸新幹線新駅周辺整備計画検討委員会」から新駅周辺の整備方針について答申をいただきました。

新駅周辺整備の基本コンセプトは、「来訪者を魅了する観光と交流の拠点」としており、新駅を景観にも配慮した交通拠点、広域観光の交流拠点として整備する方針としております。

市では、地元自治振興会、地権者のご理解、ご協力のもと、今年度から現況測量、設計等の新駅周辺整備に着手したところであります。平成20年度には、一部周辺道路などの工事着手も想定しており、新幹線開業にむけ整備を着実に進めていきたいと考えております。

北陸新幹線新駅周辺の整備推進について



併せて、新幹線開通までに、現国道8号や8号バイパスの横軸と、都市計画道路新駅中新線いわゆる背骨道路の縦軸とをつなぎ、また、新駅に地鉄新駅を併設するなど、新駅へスムーズにアクセスできるよう整備していきたいと考えております。

昭和40年代後半、日本全国に高速道路・新幹線などの高速交通網を整備し、地方の発展が叫ばれて以来、市に新幹線の駅ができるということは、100年に1度の歴史的転換期であります。

この新幹線の開業により黒部市や新川地域を訪れる観光客やビジネス客が飛躍的に増える可能性があり、この大きなチャンスを活かしていくために最大限努力いたしたいと思っておりますので、引き続き市民の皆様のご協力をお願いいたします。

新市庁舎の建設について

災害時の拠点機能



誰もが利用しやすい施設



新たなまちづくりの拠点

2つ目は、「新市庁舎の建設について」です。

新庁舎の建設につきましては、先の9月議会で議決された総合振興計画基本構想の重点プロジェクトに位置付けて推進することを決定していただきました。

現在の市庁舎は、建築後35年から55年を経過しているため、老朽化が著しく、災害時の拠点機能を確保するために耐震補強等の対策も必要となってきております。

また、市庁舎には、エレベーターや高齢者等が使用しやすいトイレが整備されていない等バリアフリー化が不十分であり、市民の皆さんに開放されたスペースや駐車場も少なく、市民誰もが利用しやすい施設になっていないといった課題があります。

このほか、新市誕生以来、行政部門を黒部庁舎、宇奈月庁舎に分散させる分庁舎方式を採用しておりますが、利用者の用件が各部にまたがる時には、庁舎間の移動が必要となり、市民に不便をおかけする場合があります。

また、一方、新市庁舎は「新しいまちづくりの拠点施設」といったシンボリック的要素もあり、新庁舎の建設につきましては、今後、庁舎建設検討組織での議論をはじめ、議会や市民の皆さんと様々な視点に立ち、財源見通しなどの諸課題を多角的に検討し、建設スケジュールなどを策定してまいりたいと考えております。

子育て・教育環境の充実について

子育てに関する支援、相談の充実 幼・保連携の強化



3つ目は、「子育て・教育環境の充実について」です。

我が国は、平成17年に出生者が死亡者を初めて下回り、人口減少時代に入りました。このまま進めば、地域によっては活力が低下し、さらには医療や介護などの社会保障制度の維持が難しくなる地域が出てきます。

こうした中で、子育てや教育環境の充実を図ることは、定住人口の増加にもつながるものであり、市の将来にとって重要な課題であると認識しております。

最近、女性の社会進出が進み、また、一方では地域のコミュニティ意識が希薄になっている状況の中で、「子どもを産み育てること」の社会的な認識が、従来と比べて大きく変わってきていることから、今後、市では、通常保育事業の拡充のほか、「子育て支援センター」等の子育て支援、相談事業を充実していくこととしております。

また、本年度より、幼・保連携の強化に向けて、保育所、幼稚園の市の対応を一本化して、こども支援課で行うことといたしました。

既存の保育所、幼稚園の一元化については、それぞれの施設の機能を保たせながら就学前の児童を預かる施設とすることについても、すぐには実施することは難しいと考えておりますが、今後とも検討していく必要があると考えております。

すばらしい黒部の子ども達を、家庭・地域・学校・企業が連携して、育てていくことがこの地域の発展につながると思っております。

子育て・教育環境の充実について

学校施設、設備の整備 学校統合、通学区域の見直し



また、学校施設、設備の整備については、現在、市内に小学校が11校と中学校が4校ありますが、建設以来45年以上経過した校舎もあるなど、耐震補強や大規模改造工事の必要のある学校がまだ多くあります。

児童生徒の教育環境と安全対策を改善し、子どもたちがのびのびと主体的に学習できるように、引き続き、学校給食センターや学校施設・設備の整備・改修等の教育環境の充実が必要であります。

長期的な学校施設の整備計画を立て、校舎、体育館の耐震化や大規模改造工事や改築を進めていきたいと考えております。

また、学校統合、通学区域の見直しについては、今年度、市内の小学生は2300人、中学生は1100人余となっています。10年前と比較すると小学生、中学生とも約350人の減となっています。

今後も少子化による児童・生徒数の減少が予想されますが、子どもたちにとってふさわしい教育環境のあり方を考えながら、学校の再編について検討しなければならない時期になっています。

これについても長期的な学校の再編計画を立て、学校統合や通学区域の見直しを推進する必要があります。

子育て・教育環境の充実について

国際理解教育の推進



また、市は国際化教育特区の認定を受け、平成18年度から全小中学校で英会話科の授業を始めました。さらに、今年度からは小学生低学年のための英語活動、小学生高学年のための英語サマーキャンプ、オランダのスネーク市に中学生を派遣する姉妹都市交流研修を実施し、「基礎」から「実践」、「体験交流」という3段階の英語特区事業が揃いました。

英語コミュニケーション能力の育成は、他者への尊重と許容力、協調性とチャレンジ精神を育むことでもあります。

今後は、これら事業の充実を図り、国際理解教育を推進するとともに、国際化に対応した人材の育成に努めたいと考えております。

消防・防災体制の充実について

自主防災組織の育成支援



4つ目は、「消防・防災体制の充実について」です。

今年に入り、隣接の能登半島（3 / 25）、中越沖（7 / 16）で、震度6強の地震が相次いで発生し、甚大な被害が出ております。

市内では、幸い大きな被害がなかったところですが、一連の地震災害を教訓に、引き続き防災危機管理体制の充実に努めるとともに、災害に強いまちづくりの確立のため、自主防災組織をはじめとして市民との連携による地域ぐるみの防災体制の強化に力を注ぐことが大変重要であると考えております。

現在、市内の自主防災組織は92団体が組織され、市内全域で設立されております。

ただ、これまで自主防災組織間の連携が図られていないといった課題があることから、今年9月に、市として初めて、荻生自主防災会と連携し、地区内各自主防災組織と民間企業、各種ボランティアなどの参加のもとに総合防災訓練を実施したところであります。

地域の防災力を高めるためには、市民の皆さん一人ひとりが防災に対する危機意識を持つこと、各家庭における日常の災害への備えに加え、日頃から地域のコミュニティ活動を通じて住民同士が協力・信頼関係を築くことが大変重要であります。

市では、引き続き防災資機材などの整備とともに、総合防災訓練の実施等を通じて、防災意識の啓発及び地域防災力の向上に取り組んでいきたいと考えております。

消防・防災体制の充実について

消防施設の高度化



また、黒部消防署は昭和47年、宇奈月消防署は昭和49年に建設され、35年ほど経過し、耐震基準をクリアしておらず、災害時における市災害対策本部のサブ対策本部、災害拠点施設としての機能に大きな不安を抱える建物であります。

今後は、消防施設整備事業として「新消防庁舎建設」を位置付け、市民の皆さんが安全・安心して暮らせるまちづくりを目指し、「6分消防、5分救急」の観点から、1消防署・1出張所体制を検討する必要があるものと考えております。

現在、消防本部に消防庁舎の検討組織を設置して検討させており、消防施設の高度化を推進したいと考えております。

安全に暮らせるまちづくりは、市民すべての願いであり、消防・救急体制、防災対策といった「安全」に係わる政策を総合的に展開し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指していきたいと考えております。



皆様からのご意見をお聞かせください

(おわりに)

提案については以上ですが、皆様から忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。